

ビブリオバトルと子ども読書活動推進計画

岡野 裕行

Bibliobattles and Basic Plans for the Promotion of Reading Activities for Children by OKANO Hiroyuki

全国47都道府県と1,424市区町村が策定する子ども読書活動推進計画を確認すると、計画内でビブリオバトルに言及する事例が増えている。2019年度までに計画策定済みの自治体のうち、計画内でビブリオバトルに言及した割合は、都道府県の87.2%、市区町村の17.8%に達する。その理由としては、①文部科学省が策定した子ども読書活動推進計画の強い影響があったこと、②各自治体の教育委員会が開催に関与する中高生大会が増加したこと、③計画内でビブリオバトルに言及することが全国的な流れになってきたこと、などが指摘できる。

1. はじめに

ビブリオバトルとは、“参加者同士で自分の気に入った本を持ち寄り、その本の魅力を紹介し合う書評ゲーム”のことで、その方法や経緯は以下のように説明されている¹⁾。

発表参加者が一人5分間で1冊の本を紹介し、それを聞いた参加者(聴衆)とディスカッションを行う。全ての発表が終わった後、どの本が読みたくなったのかを基準に、参加者全員で投票を行って勝者を決める。最多票を得た本を「チャンプ本」と呼ぶ。2007(平成19)年に当時京都大学の研究員であった谷口忠大(1978～)らによって考案され、その後全国に広まった。

そしてゲームの考案から3年後の2010年に、ビブリオバトル普及委員会が発足したことで、全国的な普及に向けての活動が進み始める^{2), 3), 4)}。ビブリオバトル普及委員会とは、公式ウェブサイトで“ビブリオバトルの普及を通して、世の中のコミュニケーションや知識共有、人々のつながりを活性化さ

せること”を目的として活動する任意団体と説明されているように、ビブリオバトルの趣旨に賛同した有志が集まり、ボランティアで運営がなされている⁵⁾。全国各地の普及委員が講師となってビブリオバトル開催のコツやノウハウなどを企業・自治体などの研修会で伝えたり、ビブリオバトルのイベント企画や大会運営などを担ったりしている。

ビブリオバトルの普及活動を目的とする公式団体がつくられたことの影響は多方面に及び、①大学生・大学院生を対象とした全国大会の共催(2010年～)⁶⁾、②関連図書の出版協力(2013年～)⁷⁾、③ビブリオバトル・シンポジウムの継続的な開催(2014年～)⁸⁾、④Bibliobattle of the Yearの継続的な実施(2016年～)⁹⁾、⑤国語科教科書掲載の出版協力(2016年～)¹⁰⁾、⑥全国各地で開催されるビブリオバトル大会の後援・協力、などの事例を挙げることができる。また、⑦高校生を対象とした全国大会(2014年～)^{11), 12)}、⑧中学生を対象とした全国大会(2018年～)¹³⁾、などの開催はビブリオバトル普及委員会が直接的に協力しているわけではないが、これらの大会はそれに先行する大学生・大学院生を対象とした全国大会から派生していったものであるため、少なからず影響を及ぼしていると考えられる。

また、図書館の新たなサービス手法や学校教育における授業教材としてビブリオバトルを活用する事

2021年12月5日受理
おかの ひろゆき 皇學館大学

例も、年を追うごとに増加し続けている。ここ数年は、公共図書館や学校教育関係者の研修会テーマとして、ビブリオバトルが選ばれる機会も増加している。2021年には『英語でビブリオバトル実践集』が出版されており、国語科の授業での導入に限らず、英語科での実践事例としても注目度が高まってきている¹⁴⁾。そのほか、2020年には『図書館情報学用語辞典』に見出し項目として取り上げられるなど、この10年間のうちに学術用語としても定着するようになってきている¹⁵⁾。

2010年のビブリオバトル普及委員会の設立後、その普及活動において特に大きな影響を及ぼした外部からの評価には、以下の三つのできごとがある。

- ア) 2012年11月：知的資源イニシアティブ(IRI)「Library of the Year 2012」の大賞を受賞したこと¹⁶⁾。
- イ) 2013年5月：文部科学省「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(第三次)」に掲載されたこと^{17), 18)}。
- ウ) 2016年10月：高橋松之助記念顕彰財団「第10回高橋松之助記念 文字・活字文化推進大賞」の特別賞を受賞したこと¹⁹⁾。

これらの評価は、それぞれ図書館関係者・学校教育関係者・出版関係者からの注目度を高めることにもつながっている。

このうち、国(文部科学省)「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(第三次)」が、全国の都道府県や市区町村の教育委員会に対してどの程度影響を及ぼしたのかについては、毎年公開されている計画の策定状況調査によって明らかにされている²⁰⁾。この調査結果を確認すれば、年を追うごとに策定された計画数が着実に増加していることがわかる。しかし、国(文部科学省)による調査は、あくまでも全国各地の都道府県および市区町村を対象として、子ども読書活動推進計画を策定したかどうかをまとめているものであり、具体的な内容まで踏み込んだ調査にはなっていない。そのため、こういった国(文部科学省)の政策を受けて、全国各地の自治体の教育委員会がビブリオバトルをどのように受け止め、各自自治体の教育振興基本計画に取り入れてきたのかについては、現時点では明らかにはされていない。

そこで本研究では、国(文部科学省)、都道府県、

市区町村が定める子ども読書活動推進計画のなかに、ビブリオバトルへの言及がどの程度なされてきたのかを網羅的に確認する。このような調査によって、ビブリオバトルが全国各地の自治体の教育政策のなかに、どの程度影響を及ぼしたのかを明らかにする。

なお、本研究を進めるにあたり、筆者の立ち位置をあらかじめ明確にしておきたい。筆者は2011年11月にビブリオバトル普及委員会に加入後、2013年6月に同委員会の理事に就任し、2015年6月から2021年6月までの6年間にわたって二代目の代表理事を務めてきた立場にある(代表理事は連続6期までとの規約により任期満了)²¹⁾。そのため、筆者がここ10年程度のビブリオバトル普及活動の中核部にいたことは事実だが、本研究はビブリオバトル普及委員会の活動とは立場を切り離し、あくまでも個人として行ってきたものである。本研究の内容については、ビブリオバトル普及委員会はいっさい関与していないことを明言しておく。

2. 子ども読書活動推進計画の策定とビブリオバトルへの言及

2.1 国(文部科学省)による子ども読書活動推進計画の策定

2001年12月に、「子どもの読書活動の推進に関する法律」が成立・公布・施行された。同法第8条には、“政府は、子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(以下「子ども読書活動推進基本計画」という。)を策定しなければならない”という条文が記されている²²⁾。

この法律を受けて、国(文部科学省)は2002年8月に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(第一次)」を策定・公表した²³⁾。これに続く形で、2008年3月に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(第二次)」, 2013年5月に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(第三次)」, 2018年4月に「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画(第四次)」を策定・公表している。この約20年間の動向を追ってみると、ほぼ約5年周期で継続的に計画を改訂していることが確認できる²⁴⁾。

本稿の冒頭で述べた通り、ビブリオバトルは2007年に考案され、2010年にビブリオバトル普及委員会が設立されたことで本格的な普及活動へとつながっている。2008年の「子どもの読書活動の推進に関する

る基本的な計画(第二次)」の時点では、ビブリオバトルというゲームが誕生した直後の萌芽期であり、世の中にはその取組みがほぼ知られていない時期となっている。そのため、タイミングとしては2013年の「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(第三次)」以降の計画の改訂が、ビブリオバトルの普及状況と関係することになる。

2.2 都道府県および市区町村による子ども読書活動推進計画の策定状況

2002年の国(文部科学省)の計画策定を受けて、全国の都道府県や市区町村でも子ども読書活動推進計画の策定が進むようになる。計画策定済みの自治体数が毎年公表されていることからわかるように、国(文部科学省)は子ども読書活動推進計画の策定を、各自治体に対して積極的に促していることが確認できる²⁵⁾。このような動きになっている背景には、前述した「子どもの読書活動の推進に関する法律」第8条において、“政府は…子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画を策定しなければならない”と国の義務となっているのに対し、都道府県や市町村については、同法第9条に“策定するよう努めなければならない”という記述があるように、努力義務とされている違いも押さえておく必要がある²⁶⁾。努力義務である以上、地方自治体が国(文部科学省)から継続的に策定を促される形になるのは、法律の趣旨から考えても当然の経緯となるだろう。

たとえば、本研究の調査時点(2021年1月現在)での最新版である2019年度(2020年3月31日現在)における全国の都道府県と市区町村の子ども読書活動推進計画の策定状況を確認すると、以下の通りとなっている²⁷⁾。

(1) 市区町村における子ども読書活動推進計画の策定状況

- 策定済みである市区町村の数と割合
1,424市区町村(81.8%)
- 現在、具体的に策定作業を進めている市区町村の数と割合
61市区町村(3.5%)
- 策定するか否かについて検討中である市区町村の数と割合
105市区町村(6.0%)
- 策定予定のない市区町村の数と割合

151市区町村(8.7%)

(2) 市区町村別子ども読書活動推進計画の策定状況

- 市区の策定状況の数と割合
761市(93.4%)
- 町村の策定状況の数と割合
663町村(71.6%)

(3) 都道府県における子ども読書活動推進計画の策定状況

- 2006年度末までに、全ての都道府県において策定済み。

以上のように、都道府県レベルでは2006年までに策定が完了していることがわかる。また、市区町村レベルでも年を追うごとに計画の策定済み自治体の割合が高くなっている。国が「子どもの読書活動の推進に関する法律」を定め、全国の自治体に子ども読書活動推進計画の策定を推し進めたことには、一定の効果が表れていることが見て取れる。子ども読書活動推進計画を策定した自治体数が年々増加していく状況に合わせ、ビブリオバトルに言及している計画数もそれに連動する形で増加しているが、この点についての具体的な分析は後述する。

2.3 文部科学省によるビブリオバトルの位置づけの変遷

2013年の文部科学省「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(第三次)」には、「ビブリオバトル」の文言が本文中の3か所に登場している。その記述は、具体的に以下のようになっている。

- 最近では、書評合戦(ビブリオバトル)のように、読むことにとどまらず言葉の力や表現力を競う新しい取組が広がっている。(p. 24)
- 近年、注目を集めている取組として、家庭読書と書評合戦(ビブリオバトル)が挙げられる。(p. 26)
- 書評合戦(ビブリオバトル)とは、各自が本を持ち寄って集まり、本の面白さについて5分程度でプレゼンテーションし合い、一番読みたくなった本を参加者の多数決で決定する書評会であり、大学、地方公共団体、図書館等で広がりつつあるが、こうした取組が全国に普及することが望まれる。(p. 26)

この計画のなかに、“言葉の力や表現力を競う新しい取組”や“こうした取組が全国に普及することが望まれる”といった記述がなされているように、国(文部科学省)の方針としても、ビブリオバトルの導入を積極的に進めようとしていることが確認できる。

2015年に日置は、このような国による法律の制定や子ども読書活動推進計画の策定という動きによって、以下に示す三つの成果につながったことを指摘している²⁸⁾。

- ①国や地方自治体の「読書」に関する取組みが増加した。
- ②地方自治体においては、独自の「読書」に関する条例の制定や、「読書のまち宣言」に積極的に取り組む事例が増加した。
- ③「ブックスタート」や「朝の読書」など、民間団体等の主導による取組みも広がった。

ビブリオバトルについては、このうちの③民間団体等の主導による取組みの一つに位置づけることができるだろう。

また、これに続く2018年の「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画(第四次)」でも、ビブリオバトルへの言及がなされている。「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(第三次)」の記述とは異なり、この第四次計画では、小学校、中学校、高等学校等における読書指導の文脈のなかで、以下のように言及されている。

- 子供が相互に図書を紹介し、様々な分野の図書に触れる活動、読書会、ペア読書、お話(ストーリーテリング)、ブックトーク、アニメーション、書評合戦(ビブリオバトル)等の子供同士で行う活動。(p. 22)

第三次計画と比べると、“新しい”という表現が削除されており、ほかの取組みと並列される程度には用語としての定着を見せていることが確認できる。子ども同士で図書を紹介し合う際の読書推進活動の手法の一つとして、計画のなかにビブリオバトルがより明確に位置づけられるようになっている。

いずれ公開される今後の第五次計画以降の改訂では、どのような形でビブリオバトルに言及されるの

かについて、現時点で知ることはできない。しかし、詳しくは本研究で後述するが、全国的にビブリオバトルが子ども読書活動推進計画のなかで言及される事例が増加している昨今の動向を見る限りでは、国(文部科学省)による子ども読書活動推進計画には、今後も何らかの形で継続的に取り上げられるものと予想される。

2.4 子ども読書活動推進計画のなかのビブリオバトルの位置づけ

都道府県や市区町村による子ども読書活動推進計画の内容を具体的に確認してみると、そのなかでビブリオバトルに言及する形式には、大まかに以下に示す三つの傾向を見ることができる。

- ①読書活動を推進するための手法の紹介(ビブリオバトルという活動の解説)
 - 子どもの読書活動を推進するための具体的な手法の一つとして、ビブリオバトルのルールや導入することの意義を簡単に紹介する。
- ②自治体内でのビブリオバトル実施事例の紹介(子どもたちの実際の活動事例)
 - 公共図書館におけるビブリオバトルの実施事例を紹介する。ここには小学生を対象としたミニ・ビブリオバトル大会、中学生や高校生を対象としたビブリオバトル大会などが含まれる。公共図書館の自主開催もあるが、教育委員会が主催・協力する形式の事例も見られる²⁹⁾。
 - 学校教育や学校図書館におけるビブリオバトルの実施事例を紹介する。ここには小中高等学校の文化祭などで実施される校内大会、授業の一環としての実施、学校図書館で実施される小規模な形式などが含まれる。
 - 公民館や商業施設などの地域コミュニティにおける実施事例を紹介する。また、都道府県立図書館による出張講座の事例も見られる。ここには同じ世代だけではなく、ビブリオバトルによって世代を超えた交流を促した実施事例が含まれる。
- ③子どもの教育や読書推進活動に関わっている大人を対象とした研修プログラムの紹介(大人たちの実際の活動事例)
 - 教育委員会が主催するビブリオバトル講習

会・研修会について報告する。公共図書館の司書や、小中高等学校の教員・学校司書などが対象となる。

- 自治体内の読書ボランティアの育成プログラムや読書推進活動の一環としてのビブリオバトル研修などについて報告する。

国(文部科学省)による子ども読書活動推進計画は、あくまでも読書推進という理念を掲げ、それを実現するための手法の一つとしてビブリオバトルを紹介すること(上記①)に留まっている。しかし、都道府県や市区町村の子ども読書活動推進計画では、①のような読書推進活動の手法の一つとしてのビブリオバトル紹介以外にも、②のような子どもたちの実際の活動事例や、③のような大人向けのビブリオバトル研修に見られるように、各自治体における具体的な実施事例にも触れていることが特徴として指摘できる。

2.5 ビブリオバトル関連図書の出版

一方、子ども読書活動推進計画を策定するにあたっては、その内容を検討するにあたって、何らかの参考文献が必要となってくることに注意しておかなければならない。子ども読書活動推進計画のなかで、具体的な読書活動の事例としてビブリオバトルに言及する場合には、そもそも「ビブリオバトルとは何か」を簡潔に説明しておく必要がある。このあたりは既に用語として定着している読み聞かせやブックトークなどの活動とは異なり、新しい取組みであるがゆえに、より丁寧な説明が計画のなかで求められていると考えられる。

たとえば狛江市では、2017年3月の『狛江市子ども読書活動推進計画(第三次)』において、2014年3月発行の『ビブリオバトルを楽しもう：ゲームで広がる読書の輪』を計画の末尾に参考文献として記していることが確認できる³⁰⁾。ビブリオバトル関連図書の出版は、一般読者に向けてビブリオバトルというゲームを伝えていくとともに、子ども読書活動推進計画を策定するに際して、各自治体の教育委員会にも影響を及ぼしていることがわかる。そのため、ビブリオバトルについてまとめられた関連図書が、いつどのようなタイミングで出版されていたのかも併せて把握しておく必要があるだろう。

ビブリオバトルという用語がタイトルに含まれて

いる関連図書を具体的に列挙すると、これまでに以下に示す10点を確認することができる³¹⁾。

- A) 谷口忠大著『ビブリオバトル：本を知り人を知る書評ゲーム』文藝春秋、2013年4月
- B) ビブリオバトル普及委員会編『ビブリオバトル入門：本を通して人を知る・人を通して本を知る』情報科学技術協会、2013年6月
- C) 粕谷亮美文、谷口忠大監修『ビブリオバトルを楽しもう：ゲームで広がる読書の輪』さ・え・ら書房、2014年3月
- D) ビブリオバトル普及委員会編著『ビブリオバトルハンドブック』子どもの未来社、2015年4月
- E) 谷口忠大監修『やるぜ！ビブリオバトル：コミュニケーションナビ話す・聞く①』すずき出版、2016年1月
- F) 粕谷亮美文、谷口忠大監修『マンガでわかるビブリオバトルに挑戦！：学校・図書館で成功させる活用実践ガイド』さ・え・ら書房、2016年3月
- G) 須藤秀紹、粕谷亮美編『ビブリオバトル実践集：読書とコミュニケーション：小学校・中学校・高校』子どもの未来社、2016年6月
- H) 谷口忠大著『賀茂川コミュニケーション塾：ビブリオバトルから人工知能まで』世界思想社、2019年12月
- I) 益井博史著『ソロモン諸島でビブリオバトル』子どもの未来社、2020年5月
- J) 木村修平、近藤雪絵編著『英語でビブリオバトル実践集』子どもの未来社、2021年2月

このうち、早い時期(2013年)の文献となるA・Bの2点については、ビブリオバトルの考案者自身が書いた著作(A)と、ビブリオバトル普及委員会が公式に関わった著作(B)であるため、その後の全国各地の子ども読書活動推進計画の策定作業に対しては、特に大きな影響力を持っていたと推測される。

3. 研究方法

本研究では、全国各地の自治体の子ども読書活動推進計画が、ビブリオバトルについて言及してきた実態を明らかにすることを目的とする。本研究の調

査対象期間は、2020年3月31日現在(2019年度)までに正式公開された子ども読書活動推進計画とする。調査対象は、①国の機関(文部科学省)が1、②都道府県が47、③市区町村が1,741(市792、特別区23、町743、村183)である。

以上の研究対象について、すべての自治体の子ども読書活動推進計画の策定状況とその内容を確認した。調査期間は2021年1月5日から20日にかけて、国(文部科学省)およびすべての都道府県と市区町村の公式ウェブサイトを確認した。前述した通り、2020年3月31日現在で子ども読書活動推進計画を策定済みの都道府県は47(100%)、市区町村は1,424(81.8%)であることが確認できる³²⁾。ただし、そのうちの一部の自治体では、子どもだけではなく、市民全体を対象とする方針で計画が形づくられているものも見受けられる³³⁾。これらの自治体では、子どもだけを対象とした計画が策定されなくなっていることから、本研究ではそのような趣旨の計画も含めて調査対象として取り上げることとした。

次に、策定が確認できた自治体の子ども読書活動推進計画のなかに、ビブリオバトルという用語を見出すことができたものを抜き出し、その計画数を数えて表の形にまとめる作業を行った。その結果は、表1から表6に示している。これらの表をもとにして、次章からビブリオバトルと子ども読書活動推進計画との間に見られる特徴をまとめていく。

4. ビブリオバトルと子ども読書活動推進計画の策定状況の比較

4.1 子ども読書活動推進計画のなかでビブリオバトルに言及した自治体数

都道府県と市区町村による子ども読書活動推進計画の調査結果をまとめたものが表1である。ここでは、a) 都道府県別の自治体数、b) 子ども読書活動推進計画のなかでビブリオバトルに言及している自治体数、c) 子ども読書活動推進計画のなかでビブリオバトルに言及している自治体数の割合、という三つの数値をまとめている。この表1からは、以下のことが読み取れる。

- ①都道府県では、全体の87%($\equiv 41/47 \times 100$)の子ども読書活動推進計画にビブリオバトルへの言及が見られる。
- ②市区では、全体の26%($\equiv 210/815 \times 100$)の子

ども読書活動推進計画にビブリオバトルへの言及が見られる。そのうち、市に限った数値は25%($\equiv 199/792 \times 100$)、東京都特別区に限った数値は48%($\equiv 11/23 \times 100$)である。

- ③町村では、全体の5%($\equiv 44/926 \times 100$)の子ども読書活動推進計画にビブリオバトルへの言及が見られる。そのうち、町に限った数値は6%($\equiv 43/743 \times 100$)、村に限った数値は1%($\equiv 1/183 \times 100$)である³⁴⁾。
- ④市区町村全体では、全体の15%($\equiv 254/1,741 \times 100$)の子ども読書活動推進計画にビブリオバトルへの言及が見られる。

以上の通り、特に都道府県や市区が公開している子ども読書活動推進計画のなかでは、ビブリオバトルへの言及が積極的に行われていることがわかる。その一方、町村が公開している子ども読書活動推進計画に注目してみると、ビブリオバトルについて言及している事例がまだそれほど多くはないことが明らかになる。

4.2 都道府県別の子ども読書活動推進計画策定状況

表2は、表1にまとめた子ども読書活動推進計画の策定状況をもとにして、a) 市区町村合計、b) 市区合計、c) 町村合計、それぞれの割合について、全国47都道府県の数値の高い順番に並べたものである。この表2からは、以下のことが読み取れる。

- ①全国の都道府県のうち、子ども読書活動推進計画のなかでビブリオバトルに言及している市区町村の過半数を越えているのは、全国で栃木県のみ(52%)である³⁵⁾。
- ②市区と比べると町村の割合は数値が低くなっており、子ども読書活動推進計画におけるビブリオバトルへの言及は全体的に遅れ気味である。
- ③約半数の都道府県(岩手県から沖縄県までの25府県)では、町村が定める子ども読書活動推進計画のなかにビブリオバトルへの言及がなされていない。
- ④都道府県と市区町村の策定状況の間には、特に目立つような相関は見られない(県の計画でビブリオバトルへの言及がなくとも、当該県内の一部の市町村の計画には盛り込まれている事例

表1：子どもの読書活動推進計画のなかでビブリオバトルに言及している自治体数とその割合(都道府県別／2020年3月31日現在)

	都道府県別の自治体数(※1)							子ども読書活動推進計画のなかでビブリオバトルに言及している自治体数(都道府県別)							子ども読書活動推進計画のなかでビブリオバトルに言及している自治体数の割合(都道府県別)								
	都道府県	市区合計		町村合計			市区町村合計	都道府県	市区合計		町村合計			市区町村合計	都道府県	市区合計		町村合計			市区町村合計		
		市	区		町	村			市	区		町	村			市	区		町	村			
1	北海道	35	35	144	129	15	179	1	6	6	14	14	0	20	100%	17%	17%	10%	11%	0%	11%		
2	青森県	10	10	30	22	8	40	1	1	1	1	1	0	2	100%	10%	10%	3%	5%	0%	5%		
3	岩手県	14	14	19	15	4	33	1	2	2	0	0	0	2	100%	14%	14%	0%	0%	0%	6%		
4	宮城県	14	14	21	20	1	35	1	2	2	0	0	0	2	100%	14%	14%	0%	0%	0%	6%		
5	秋田県	13	13	12	9	3	25	1	4	4	1	1	0	5	100%	31%	31%	8%	11%	0%	20%		
6	山形県	13	13	22	19	3	35	1	2	2	1	1	0	3	100%	15%	15%	5%	5%	0%	9%		
7	福島県	13	13	46	31	15	59	1	4	4	1	1	0	5	100%	31%	31%	2%	3%	0%	8%		
8	茨城県	32	32	12	10	2	44	1	5	5	0	0	0	5	100%	16%	16%	0%	0%	0%	11%		
9	栃木県	14	14	11	11	0	25	1	12	12	1	1	0	13	100%	86%	86%	9%	9%	-	52%		
10	群馬県	12	12	23	15	8	35	1	5	5	0	0	0	5	100%	42%	42%	0%	0%	0%	14%		
11	埼玉県	40	40	23	22	1	63	1	16	16	2	2	0	18	100%	40%	40%	9%	9%	0%	29%		
12	千葉県	37	37	17	16	1	54	1	3	3	0	0	0	3	100%	8%	8%	0%	0%	0%	6%		
13	東京都	49	26	23	13	5	8	62	1	29	18	11	1	0	30	100%	59%	69%	48%	8%	20%	48%	
14	神奈川県	19	19	14	13	1	33	1	6	6	1	1	0	7	100%	32%	32%	7%	8%	0%	21%		
15	新潟県	20	20	10	6	4	30	0	2	2	0	0	0	2	0%	10%	10%	0%	0%	0%	7%		
16	富山県	10	10	5	4	1	15	1	1	1	0	0	0	1	100%	10%	10%	0%	0%	0%	7%		
17	石川県	11	11	8	8	0	19	1	6	6	0	0	0	6	100%	55%	55%	0%	0%	-	32%		
18	福井県	9	9	8	8	0	17	1	1	1	0	0	0	1	100%	11%	11%	0%	0%	-	6%		
19	山梨県	13	13	14	8	6	27	1	4	4	0	0	0	4	100%	31%	31%	0%	0%	0%	15%		
20	長野県	19	19	58	23	35	77	1	6	6	1	0	1	7	100%	32%	32%	2%	0%	3%	9%		
21	岐阜県	21	21	21	19	2	42	1	3	3	1	1	0	4	100%	14%	14%	5%	5%	0%	10%		
22	静岡県	23	23	12	12	0	35	1	4	4	1	1	0	5	100%	17%	17%	8%	8%	-	14%		
23	愛知県	38	38	16	14	2	54	1	7	7	1	1	0	8	100%	18%	18%	6%	7%	0%	15%		
24	三重県	14	14	15	15	0	29	1	4	4	0	0	0	4	100%	29%	29%	0%	0%	-	14%		
25	滋賀県	13	13	6	6	0	19	1	4	4	0	0	0	4	100%	31%	31%	0%	0%	-	21%		
26	京都府	15	15	11	10	1	26	1	4	4	0	0	0	4	100%	27%	27%	0%	0%	0%	15%		
27	大阪府	33	33	10	9	1	43	1	13	13	2	2	0	15	100%	39%	39%	20%	22%	0%	35%		
28	兵庫県	29	29	12	12	0	41	1	5	5	2	2	0	7	100%	17%	17%	17%	17%	-	17%		
29	奈良県	12	12	27	15	12	39	0	1	1	0	0	0	1	0%	8%	8%	0%	0%	0%	3%		
30	和歌山県	9	9	21	20	1	30	1	3	3	2	2	0	5	100%	33%	33%	10%	10%	0%	17%		
31	鳥取県	4	4	15	14	1	19	1	0	0	0	0	0	0	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%		
32	島根県	8	8	11	10	1	19	1	2	2	0	0	0	2	100%	25%	25%	0%	0%	0%	11%		
33	岡山県	15	15	12	10	2	27	1	2	2	2	2	0	4	100%	13%	13%	17%	20%	0%	15%		
34	広島県	14	14	9	9	0	23	1	2	2	0	0	0	2	100%	14%	14%	0%	0%	-	9%		
35	山口県	13	13	6	6	0	19	1	6	6	0	0	0	6	100%	46%	46%	0%	0%	-	32%		
36	徳島県	8	8	16	15	1	24	0	2	2	2	2	0	4	0%	25%	25%	13%	13%	0%	17%		
37	香川県	8	8	9	9	0	17	0	2	2	0	0	0	2	0%	25%	25%	0%	0%	-	12%		
38	愛媛県	11	11	9	9	0	20	1	1	1	0	0	0	1	100%	9%	9%	0%	0%	-	5%		
39	高知県	11	11	23	17	6	34	1	1	1	0	0	0	1	100%	9%	9%	0%	0%	0%	3%		
40	福岡県	29	29	31	29	2	60	1	8	8	3	3	0	11	100%	28%	28%	10%	10%	0%	18%		
41	佐賀県	10	10	10	10	0	20	1	0	0	0	0	0	0	100%	0%	0%	0%	0%	-	0%		
42	長崎県	13	13	8	8	0	21	0	3	3	1	1	0	4	0%	23%	23%	13%	13%	-	19%		
43	熊本県	14	14	31	23	8	45	1	4	4	0	0	0	4	100%	29%	29%	0%	0%	0%	9%		
44	大分県	14	14	4	3	1	18	1	3	3	0	0	0	3	100%	21%	21%	0%	0%	0%	17%		
45	宮崎県	9	9	17	14	3	26	0	1	1	2	2	0	3	0%	11%	11%	12%	14%	0%	12%		
46	鹿児島県	19	19	24	20	4	43	1	7	7	1	1	0	8	100%	37%	37%	4%	5%	0%	19%		
47	沖縄県	11	11	30	11	19	41	1	1	1	0	0	0	1	100%	9%	9%	0%	0%	0%	2%		
	全国	815	792	23	926	743	1,741	41	210	199	11	44	43	1	254	87%	26%	25%	48%	5%	6%	1%	15%

※1 全国の自治体数は、地方公共団体情報システム機構「都道府県別市区町村数一覧」(https://www.j-lis.go.jp/spd/code-address/kenbetsu-inspection/cms_11914151.html)を参照した。

表2：子ども読書活動推進計画のなかでビブリオバトルに言及している自治体数の割合(2020年3月31日現在)

順位	都道府県	計画内の言及	市区町村合計
1	栃木県	○	52%
2	東京都	○	48%
3	大阪府	○	35%
4	石川県	○	32%
4	山口県	○	32%
6	埼玉県	○	29%
7	神奈川県	○	21%
7	滋賀県	○	21%
9	秋田県	○	20%
10	長崎県	×	19%
10	鹿児島県	○	19%
12	福岡県	○	18%
13	兵庫県	○	17%
13	和歌山県	○	17%
13	徳島県	×	17%
13	大分県	○	17%
17	山梨県	○	15%
17	愛知県	○	15%
17	京都府	○	15%
17	岡山県	○	15%
21	群馬県	○	14%
21	静岡県	○	14%
21	三重県	○	14%
24	香川県	×	12%
24	宮崎県	×	12%
26	北海道	○	11%
26	茨城県	○	11%
26	鳥根県	○	11%
29	岐阜県	○	10%
30	山形県	○	9%
30	長野県	○	9%
30	広島県	○	9%
30	熊本県	○	9%
34	福島県	○	8%
35	新潟県	×	7%
35	富山県	○	7%
37	岩手県	○	6%
37	宮城県	○	6%
37	千葉県	○	6%
37	福井県	○	6%
41	青森県	○	5%
41	愛媛県	○	5%
43	奈良県	×	3%
43	高知県	○	3%
45	沖縄県	○	2%
46	鳥取県	○	0%
46	佐賀県	○	0%

順位	都道府県	計画内の言及	市区合計
1	栃木県	○	86%
2	東京都	○	59%
3	石川県	○	55%
4	山口県	○	46%
5	群馬県	○	42%
6	埼玉県	○	40%
7	大阪府	○	39%
8	鹿児島県	○	37%
9	和歌山県	○	33%
10	神奈川県	○	32%
10	長野県	○	32%
12	秋田県	○	31%
12	福島県	○	31%
12	山梨県	○	31%
12	滋賀県	○	31%
16	三重県	○	29%
16	熊本県	○	29%
18	福岡県	○	28%
19	京都府	○	27%
20	鳥根県	○	25%
20	徳島県	×	25%
20	香川県	×	25%
23	長崎県	×	23%
24	大分県	○	21%
25	愛知県	○	18%
26	北海道	○	17%
26	静岡県	○	17%
26	兵庫県	○	17%
29	茨城県	○	16%
30	山形県	○	15%
31	岩手県	○	14%
31	宮城県	○	14%
31	岐阜県	○	14%
31	広島県	○	14%
35	岡山県	○	13%
36	福井県	○	11%
36	宮崎県	×	11%
38	青森県	○	10%
38	新潟県	×	10%
40	富山県	○	10%
41	愛媛県	○	9%
41	高知県	○	9%
41	沖縄県	○	9%
44	千葉県	○	8%
44	奈良県	×	8%
46	鳥取県	○	0%
46	佐賀県	○	0%

順位	都道府県	計画内の言及	町村合計
1	大阪府	○	20%
2	兵庫県	○	17%
2	岡山県	○	17%
4	徳島県	×	13%
4	長崎県	×	13%
6	宮崎県	×	12%
7	北海道	○	10%
7	和歌山県	○	10%
7	福岡県	○	10%
10	栃木県	○	9%
10	埼玉県	○	9%
12	秋田県	○	8%
12	東京都	○	8%
12	静岡県	○	8%
15	神奈川県	○	7%
16	愛知県	○	6%
17	山形県	○	5%
17	岐阜県	○	5%
19	鹿児島県	○	4%
20	青森県	○	3%
21	福島県	○	2%
21	長野県	○	2%
23	岩手県	○	0%
23	宮城県	○	0%
23	茨城県	○	0%
23	群馬県	○	0%
23	千葉県	○	0%
23	新潟県	×	0%
23	富山県	○	0%
23	石川県	○	0%
23	福井県	○	0%
23	山梨県	○	0%
23	三重県	○	0%
23	滋賀県	○	0%
23	京都府	○	0%
23	奈良県	×	0%
23	鳥取県	○	0%
23	鳥根県	○	0%
23	広島県	○	0%
23	山口県	○	0%
23	香川県	×	0%
23	愛媛県	○	0%
23	高知県	○	0%
23	佐賀県	○	0%
23	熊本県	○	0%
23	大分県	○	0%
23	沖縄県	○	0%

も確認できる)³⁶⁾。

- ⑤市区では、上位10位までに栃木県・東京都・群馬県・埼玉県・神奈川県等の1都4県が入っているなど、特に関東地方で積極的に言及されていることがわかる。
- ⑥町村では、上位7位までに大阪府・兵庫県・岡山県・徳島県・長崎県・宮崎県・和歌山県・福岡県の1府7県が入っているなど、特に西日本で積極的に言及されていることがわかる。
- ⑦市区町村全体で見ると、市区のみと比べて順位に大きな変動はないが、それでも市区のみでは上位に位置していた群馬県・鹿児島県・和歌山県などの順位が、やや下がっていることが確認できる。表1と照らし合わせればわかるように、これらはいずれも市よりも町村のほうが自治体数の多い県であり、市町村の数を合算することで、全体の割合の数値がほかの都道府県と比べても下がりやすかったためと推測される。

4.3 時系列から見る子ども読書活動推進計画とビブリオバトル

表3-1と表3-2は、子ども読書活動推進計画のなかでビブリオバトルに言及している自治体とその計画名を、時系列に並べたものである³⁷⁾。また、先に2.5でも触れておいたビブリオバトル関連図書についても、子ども読書活動推進計画との関係性が見えやすくなるように、それらが出版された時期がいつ頃なのかを明示する形で表3-1と表3-2の一部として記載している。

子ども読書活動推進計画が策定されるタイミングは、例年3月に策定されることがもっとも多いことがわかる。この表3-1からは、以下のことが読み取れる。

- ①2013年5月の文部科学省「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(第三次)」よりも早い時点で子ども読書活動推進計画のなかでビブリオバトルに言及した自治体は、北海道が全国でも唯一の事例である³⁸⁾。
- ②2013年4月出版の谷口忠大著『ビブリオバトル：本を知り人を知る書評ゲーム』と、2013年6月出版のビブリオバトル普及委員会編『ビブリオバトル入門：本を通して人を知る・人を通して本を知る』の2点は、それらの出版時期を

考慮すると、北海道と国(文部科学省)の子ども読書活動推進計画の策定作業に対する直接的な影響はなかったと考えられる。一方、そこから少し時間が空いた2014年2月以降の計画策定については、参考文献として何らかの影響が及んでいたと推測される。

- ③市の子ども読書活動推進計画では、2014年3月の紋別市(北海道)、高崎市(群馬県)、京都市(京都府)の3市がもっとも早い事例となっている。文部科学省「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(第三次)」よりも10か月後の策定である。
- ④東京都特別区の子ども読書活動推進計画では、2014年12月の北区がもっとも早い事例となっている。文部科学省「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(第三次)」よりも、1年7か月後となっている。
- ⑤町の子ども読書活動推進計画では、2014年4月の雄武町(北海道)がもっとも早い事例となっている。文部科学省「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(第三次)」よりも、11か月後となっている。
- ⑥村の子ども読書活動推進計画では、2018年3月の南箕輪村(長野県)がもっとも早い事例となっている。文部科学省「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(第三次)」よりも、4年10か月後となっている。市町と比べても自治体数が少ない(村の数は全国に183)という理由もあると思われるが、市区町と比べるとやや遅れての策定開始となっている³⁹⁾。
- ⑦都道府県においては、北海道、青森県、宮城県、福島県、三重県、滋賀県、京都府、兵庫県、広島県、山口県、熊本県、の11道府県は、それぞれの第三次計画に続き、第四次計画でもビブリオバトルに言及している。
- ⑧市区町村においては、京都市(京都府)、東神楽町(北海道)、野々市市(石川県)、熊本市(熊本県)の4市町は、それぞれの改訂版でもビブリオバトルに言及している⁴⁰⁾。

4.4 策定自治体数の年度別進捗状況

表4は、子ども読書活動推進計画の策定自治体数と、その計画のなかでビブリオバトルについて言及している自治体数の累積を、年度別にまとめたもの

表3-1：子ども読書活動推進計画のなかでビブリオバトルに言及している自治体一覧(年月順/2020年3月まで)

計画の発行年月	自治体数				計画主体(国・都道府県・市区町村の名称)			ビブリオバトルに言及している子ども読書活動推進計画の名称	計画改訂状況	関連図書
	都道府県	市区町村	市区	町村	国	都道府県	市区町村			
2013年3月	1					北海道		北海道子どもの読書活動推進計画(第三次)	①	
2013年4月										A
2013年5月						文部科学省		子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(第三次)	①	
2013年6月										B
2014年2月	2					広島県		広島県子供の読書活動推進計画(第三次)	①	
						熊本県		肥後っ子いきいき読書プラン(第三次)	①	
2014年3月	2	3	3			(北海道) 紋別市		紋別市子どもの読書活動推進計画(第三次)		C
						宮城県		みやぎ子ども読書活動推進計画(第三次)	①	
						(群馬県) 高崎市		高崎市子ども読書活動推進計画		
						(京都府) 京都市		京都市子ども読書活動推進計画(第三次)	①	
						山口県		山口県子ども読書活動推進計画(第三次)	①	
2014年4月		1		1		(北海道) 雄武町		雄武町子どもの読書活動推進計画(第二次)		
2014年7月		1	1			(北海道) 恵庭市		恵庭市読書活動推進計画 ★		
2014年12月	1	1	1			(東京都) 北区		北区子ども読書活動推進計画素案(第三次)		
						滋賀県		滋賀県子ども読書活動推進計画(第三次)	①	
2015年1月	1					京都府		京都府子どもの読書活動推進計画(第三次)	①	
2015年2月	2	2	2			福島県		福島県子ども読書活動推進計画(第三次)	①	
						東京都		東京都子供読書活動推進計画(第三次)		
						(東京都) 町田市		町田市子ども読書活動推進計画(第三次)		
						(大阪府) 交野市		交野市子ども読書活動推進計画(第二・三次)		
2015年3月	4	9	7	2		(北海道) 帯広市		帯広市子どもの読書活動推進計画(第三次)		
						(北海道) 東神楽町		東神楽町子ども読書推進計画(第二次)	①	
						青森県		青森県子ども読書活動推進計画(第三次)	①	
						茨城県		いばらき子ども読書活動推進計画(第三次)		
						千葉県		千葉県子どもの読書活動推進計画(第三次)		
						(東京都) 八王子市		読書のまち八王子推進計画(第三次) ★		
						(東京都) 東村山市		東村山市子ども読書活動推進計画(第三次)		
						(東京都) 瑞穂町		瑞穂町子ども読書活動推進計画(第二次)		
						(石川県) 野々市市		野々市市子ども読書活動推進計画(第二次)	①	
						(長野県) 塩尻市		塩尻市子ども読書活動推進計画(第二次)		
						兵庫県		ひょうご子どもの読書活動推進計画(第三次)	①	
						(和歌山県) 橋本市		橋本市子ども読書活動推進計画(第二次)		
						(福岡県) 小郡市		小郡市子ども読書活動推進計画(第三次)		
2015年4月	1	2	2			三重県		三重県子ども読書活動推進計画(第三次)	①	D
						(福岡県) 春日市		春日市子ども読書活動推進計画(第二次)		
						(熊本県) 熊本市		熊本市子ども読書活動推進計画(第三次)	①	
2015年7月		2	1	1		(東京都) 立川市		立川市子ども読書活動推進計画(第三次)		
						(大阪府) 熊取町		熊取町子ども読書活動推進計画(第三次)		
2015年8月		1	1			(長野県) 佐久市		佐久市子ども読書活動推進計画(第二次)	①	
2015年11月		1	1			(埼玉県) 三郷市		日本一の読書のまち三郷推進計画(2016~2020年度) ★		
2016年1月										E
2016年2月		3	1	2		(北海道) 興部町		興部町子どもの読書活動推進計画		
						(北海道) 蘭越町		蘭越町子どもの読書活動推進計画(第二次)		
						(兵庫県) 高砂市		高砂市子ども読書活動推進計画		
2016年3月	2	26	22	4		(北海道) 岩見沢市		いわみざわの子どもの読書プラン		F
						(青森県) 十和田市		十和田市子ども読書活動推進計画(第三次)		
						(青森県) 階上町		階上町子ども読書活動推進計画(第二次)		
						秋田県		秋田県読書活動推進基本計画(第二次) ★		
						(秋田県) 鹿角市		鹿角市子ども読書活動推進計画		

計画の 発行年月	自治体数				計画主体(国・都道府県・市区町村の名称)			ビブリオバトルに言及している 子ども読書活動推進計画の名称	計画 改訂 状況	関連 図書
	都道府 県	市区 町村	市区	町村	国	都道府県	市区町村			
					(秋田県)	湯沢市	湯沢市子ども読書活動推進計画			
					(栃木県)	日光市	日光市読書活動推進計画(第三次) ★			
					(埼玉県)	さいたま市	さいたま市子ども読書活動推進計画(第三次)			
					(埼玉県)	新座市	新座市子ども読書活動推進計画(第三次)			
					(埼玉県)	羽生市	羽生市子ども読書活動推進計画(第二次)			
					(東京都)	江東区	江東区こども読書活動推進計画(第二次)			
					(山梨県)	山梨市	山梨市子ども読書活動推進計画(第二次)			
					(静岡県)	藤枝市	藤枝市子ども読書活動推進計画(第三次)			
					(三重県)	志摩市	志摩市子ども読書活動推進計画(第二次)			
					(大阪府)		大阪府子ども読書活動推進計画(第三次)			
					(大阪府)	門真市	門真市子ども読書活動推進計画(第二次)			
					(大阪府)	河内長野市	河内長野市子ども読書活動推進計画(第三次)			
					(兵庫県)	姫路市	姫路市子ども読書活動推進計画(第三次)			
					(兵庫県)	市川町	市川町子どもの読書活動推進計画			
					(広島県)	廿日市市	廿日市市子どもの読書活動推進計画(第二次)			
					(徳島県)	鳴門市	鳴門市子どもの読書活動推進計画(第三次)			
					(徳島県)	神山町	神山町子どもの読書活動推進計画			
					(徳島県)	那賀町	那賀町子ども読書活動推進計画			
					(愛媛県)	松山市	まつやま子ども読書活動推進計画(第三次)			
					(福岡県)	北九州市	北九州市子ども読書活動推進計画(第三次)			
					(福岡県)	みやま市	みやま市子ども読書活動推進計画(改訂版)			
					(大分県)	臼杵市	臼杵市子ども読書活動推進計画(第二次)			
					(鹿児島県)	鹿児島市	鹿児島市子ども読書活動推進計画(第三次)			
2016年4月		4	2	2	(宮城県)	塩竈市	塩竈市子ども読書活動推進計画(第二次)			
					(岐阜県)	富加町	富加町子どもの読書活動推進計画(第三次)			
					(静岡県)	掛川市	掛川市子ども読書活動推進計画(第三次)			
					(和歌山県)	有田川町	有田川町子どもの読書活動推進計画			
2016年5月		4	4		(東京都)	豊島区	豊島区子ども読書活動推進計画(第三次)			
					(大阪府)	寝屋川市	寝屋川市子ども読書活動推進計画(第二次)			
					(兵庫県)	丹波市	丹波市子ども読書活動推進計画(第二次)			
					(大分県)	別府市	別府市子どもの読書活動推進計画(第二次)			
2016年6月		2	2		(福島県)	福島市	福島市子ども読書活動推進計画(第三次)		G	
					(福島県)	会津若松市	会津若松市子ども読書活動推進計画(第二次)			
2016年8月	1	2	1	1	(愛知県)	津島市	津島市子ども読書活動推進計画(第二次)			
					(大阪府)	能勢町	能勢町子ども読書活動推進計画			
					(福岡県)		福岡県子ども読書推進計画(改訂版)			
2016年10月		1	1		(島根県)	浜田市	浜田市子ども読書活動推進計画(第二次)			
2016年11月		2	2		(愛知県)	日進市	日進市子ども読書活動推進計画			
					(奈良県)	大和高田市	大和高田市子ども読書活動推進計画			
2016年12月		1		1	(静岡県)	森町	森町子ども読書活動推進計画(第三次)			
2017年1月		1	1		(宮城県)	仙台市	仙台市子ども読書活動推進計画(第三次)			
2017年2月	1	1	1		(栃木県)	足利市	足利市子ども読書活動推進計画			
					(高知県)		高知県子ども読書活動推進計画(第三次)			
2017年3月	2	24	22	2	(北海道)	妹背牛町	妹背牛町子どもの読書活動推進計画			
					(山形県)		山形県子ども読書活動推進計画(第三次)			
					(茨城県)	取手市	取手市子ども読書活動推進計画(第二次)			
					(栃木県)	鹿沼市	鹿沼市子どもの読書活動推進計画(第三次)			
					(栃木県)	那須塩原市	那須塩原市子どもの読書活動推進計画(第二次)			
					(埼玉県)	朝霞市	朝霞市子ども読書活動推進計画(第二次)			
					(埼玉県)	東松山市	東松山市子ども読書活動推進計画			
					(千葉県)	柏市	柏市子ども読書活動推進計画(第三次)			
					(東京都)	昭島市	昭島市子ども読書活動推進計画(第三次)			
					(東京都)	狛江市	狛江市子ども読書活動推進計画(第三次)			

計画の 発行年月	自治体数				計画主体(国・都道府県・市区町村の名称)			ビブリオバトルに言及している 子ども読書活動推進計画の名称	計画 改訂 状況	関連 図書
	都道府 県	市区 町村	市区	町村	国	都道府県	市区町村			
					(東京都)	武蔵村山市	子供読書活動推進計画(第三次)			
					(東京都)	羽村市	羽村市子ども読書活動推進計画(第三次)			
					(神奈川県)	小田原市	小田原市子ども読書活動推進計画(第二次)			
					(石川県)	白山市	白山市子ども読書活動推進計画(第三次)			
					山梨県		山梨県子ども読書活動推進実施計画(第三次)			
					(愛知県)	一宮市	一宮市子ども読書活動推進計画(第三次)			
					(静岡県)	富士宮市	富士宮市子ども読書活動推進計画(第三次)			
					(三重県)	桑名市	桑名市子ども読書活動推進計画(第三次)			
					(大阪府)	枚方市	枚方市子ども読書活動推進計画(第三次)			
					(京都府)	木津川市	木津川市子どもの読書活動推進計画(第二次)			
					(広島県)	庄原市	庄原市子供の読書活動推進計画(第三次)			
					(山口県)	光市	光市子どもの読書活動推進計画(第三次)			
					(熊本県)	天草市	天草市子ども読書活動推進指針			
					(宮崎県)	門川町	門川町子ども読書活動推進計画(第二次)			
					(鹿児島県)	出水市	出水市読書活動推進計画(第三次) ★			
2017年4月		4	3	1	(京都府)	綾部市	綾部市子どもの読書活動推進計画(第二次)			
					(岩手県)	花巻市	花巻市子ども読書活動推進計画(第三次)			
					(岩手県)	久慈市	久慈市子どもの読書活動推進計画(第二次)			
2018年2月		3	3		(茨城県)	水戸市	水戸市子ども読書活動推進計画			
					(埼玉県)	三芳町	三芳町子ども読書活動推進計画(第二次)			
					(栃木県)	佐野市	佐野市子ども読書活動推進計画(第三次)			
2018年3月	1	30	25	5	(神奈川県)	鎌倉市	鎌倉市子ども読書活動推進計画(第三次)			
					(長崎県)	西海市	西海市子ども読書活動推進計画(第三次)			
					(北海道)		北海道子どもの読書活動推進計画(第四次) ②			
(北海道)	別海町	別海町子どもの読書活動推進計画								
(北海道)	羅臼町	羅臼町子どもの読書活動推進計画(第一次)								
(秋田県)	大館市	大館市読書活動推進計画(第三次) ★								
(茨城県)	牛久市	牛久市子ども読書活動推進計画(第二次)								
(栃木県)	宇都宮市	宇都宮市読書活動推進計画(第二次) ★								
(埼玉県)	加須市	加須市子ども読書活動推進計画(第三次)								
(埼玉県)	草加市	草加市子ども読書活動推進計画(2018~2023年度)								
(埼玉県)	深谷市	深谷市子供読書活動推進計画(第二次)								
(東京都)	中央区	中央区子ども読書活動推進計画(第三次)								
(東京都)	港区	港区子ども読書活動推進計画								
(東京都)	あきる野市	あきる野市子ども読書活動推進計画(第三次)								
(東京都)	東大和市	東大和市子ども読書活動推進計画(第二次)								
(東京都)	多摩市	多摩市子どもの読書活動推進計画(第三次)								
(神奈川県)	横須賀市	横須賀市子ども読書活動推進計画(第三次)								
(新潟県)	五泉市	五泉市子ども読書活動推進計画(第二次)								
(石川県)	加賀市	加賀市子ども読書活動推進計画(第三次)								
(長野県)	南箕輪村	南箕輪村子ども読書活動推進計画(第三次)								
(山梨県)	北杜市	北杜市子ども読書活動推進計画(第三次)								
(静岡県)		「本とともだち」プラン：静岡県子ども読書活動推進計画(第三次)								
(三重県)	伊勢市	伊勢市子ども読書活動推進計画(第三次)								
(和歌山県)	岩出市	岩出市子ども読書活動推進計画(第三次)								
(大阪府)	大阪市	大阪市子ども読書活動推進計画(第三次)								
(大阪府)	摂津市	摂津市子ども読書活動推進計画								
(大阪府)	柏原市	柏原市子ども読書活動推進計画(第二次)								
(山口県)	萩市	萩市子ども読書活動推進計画(第二次)								
(香川県)	観音寺市	観音寺市子ども読書活動推進計画(第三次)								
(福岡県)	大刀洗町	大刀洗町子どもの読書活動推進計画(第二次)								
(福岡県)	苅田町	苅田町子ども読書活動推進計画(改訂版)								

計画の 発行年月	自治体数				計画主体(国・都道府県・市区町村の名称)			ビブリオバトルに言及している 子ども読書活動推進計画の名称	計画 改訂 状況	関連 図書
	都道 府県	市区 町村	市区	町村	国	都道府県	市区町村			
						(熊本県) 合志市	合志市子ども読書活動推進計画(第三次)			
						(宮崎県) 日向市	日向市子ども読書活動推進計画(第二次)			
						(鹿児島県) 霧島市	霧島市子ども読書活動推進計画			
2018年4月		11	7	4	文部科学省		子供の読書活動の推進に関する基本的な計画(第四次)	②		
						(北海道) せたな町	せたな町子どもの読書活動推進計画			
						(北海道) 森町	森町子どもの読書活動推進計画(第三次)			
						(北海道) 大空町	大空町子どもの読書活動推進計画(第三次)			
						(群馬県) 安中市	安中市子ども読書活動推進計画(第三次)			
						(埼玉県) 富士見市	富士見市子ども読書活動推進計画(第三次)			
						(埼玉県) 本庄市	本庄市子ども読書活動推進計画(第二次)			
						(東京都) 杉並区	杉並区子ども読書活動推進計画			
						(愛知県) 名古屋市	名古屋市子ども読書活動推進計画(第三次)			
						(愛知県) 美浜町	美浜町子ども読書活動推進計画(第二次)			
						(和歌山県) 新宮市	新宮市子ども読書活動推進計画(第二次)			
						(福岡県) うきは市	うきは市子どもの読書活動推進計画(第二次)			
2018年5月		1	1			(埼玉県) 狭山市	狭山市子ども読書活動推進計画(第二次)			
2018年6月		1	1			(鹿児島県) 阿久根市	阿久根市子ども読書活動推進計画(第二次)			
2018年7月		1		1		(和歌山県) かつらぎ町	かつらぎ町子ども読書活動推進計画(第二次)			
2018年9月		1	1			(兵庫県) 宝塚市	宝塚市子ども読書活動推進計画(第三次)			
2018年11月		1	1			(大分県) 豊後大野市	「豊後大野っ子」読書活動推進計画(第二次)			
2018年12月	1					鹿児島県	鹿児島県子ども読書活動推進計画(第四次)			
2019年1月		2	1	1		(栃木県) 下野市	下野市子どもの読書活動推進計画(第三次)			
						(鹿児島県) 瀬戸内町	瀬戸内町子ども読書活動推進計画(改訂版)			
2019年2月	1	3	3			(千葉県) 船橋市	船橋市子供の読書活動推進計画(第三次)			
						(長野県) 松本市	学都松本子ども読書活動推進計画(第二次)			
						愛知県	愛知県子供読書活動推進計画(第四次)			
						(大阪府) 堺市	堺市子ども読書活動推進計画			
2019年3月	12	37	32	5		(北海道) 苫小牧市	苫小牧市子どもの読書活動推進計画(第四次)			
						(北海道) 今金町	今金町子ども読書活動推進計画(第三次)			
						岩手県	岩手県子どもの読書活動推進計画(第四次)			
						(秋田県) 横手市	横手市子ども読書活動推進計画(第二次)			
						(福島県) 矢祭町	矢祭町子ども読書活動推進計画			
						(茨城県) 鉾田市	鉾田市子ども読書活動推進計画(2019~2023年度)			
						栃木県	栃木県子どもの読書活動推進計画(第四次)			
						(栃木県) 栃木市	栃木市子どもの読書活動推進計画(第二次)			
						(栃木県) 大田原市	大田原市子どもの読書活動推進計画(第二次)			
						(栃木県) 那須烏山市	那須烏山市子ども読書推進計画(第三次)			
						(群馬県) 前橋市	前橋市子ども読書活動推進計画(第三次)			
						(群馬県) 館林市	館林市子ども読書活動推進計画(第三次)			
						埼玉県	埼玉県子供読書活動推進計画(第四次)			
						(埼玉県) 春日部市	春日部市子ども読書活動推進計画			
						(埼玉県) 所沢市	所沢市子どもの読書活動推進計画(第三次)			
						(千葉県) 習志野市	習志野市子どもの読書活動推進計画(2019~2025年度)			
						(東京都) 渋谷区	渋谷区子供読書活動推進計画			
						(東京都) 調布市	調布市子ども読書活動推進計画(第三次)			
						(東京都) 清瀬市	清瀬市子供読書活動推進計画(第三次)			
						神奈川県	かながわ読書のススメ：神奈川県子ども読書活動推進計画(第四次)			
						(神奈川県) 開成町	開成町子ども読書活動推進計画(第三次)			
						富山県	富山県子ども読書活動推進計画(第四次)			
						石川県	石川県子ども読書活動推進計画(第四次)			

計画の 発行年月	自治体数				計画主体(国・都道府県・市区町村の名称)			ビブリオバトルに言及している 子ども読書活動推進計画の名称	計画 改訂 状況	関連 図書
	都道 府県	市区 町村	市区	町村	国	都道府県	市区町村			
						(石川県) 金沢市	金沢子ども読書推進プラン2019			
						(福井県) 越前市	越前市子ども読書活動推進計画(第二次)			
						(長野県) 岡谷市	岡谷市子ども読書活動推進計画(第三次)			
						(長野県) 飯山市	飯山市子ども読書活動推進計画(第二次)			
						(山梨県) 甲府市	甲府市子どもの読書活動推進計画(第三次)			
						(山梨県) 韮崎市	韮崎市子ども読書活動推進計画(第二次)			
						(愛知県) 瀬戸市	瀬戸市子ども読書活動推進計画(第三次)			
						(静岡県) 裾野市	裾野市子ども読書活動推進計画(第三次)			
						滋賀県	滋賀県子ども読書活動推進計画(第四次)	②		
						和歌山県	和歌山県子供の読書活動推進計画(第四次)			
						(大阪府) 四條畷市	四條畷市子ども読書活動推進計画(第三次)			
						(大阪府) 阪南市	阪南市子ども読書活動推進計画(第三次)			
						(京都府) 長岡京市	長岡京市子どもの読書活動推進計画			
						(兵庫県) 西宮市	西宮市子供読書活動推進計画(2019～2023年度)			
						岡山県	岡山県子ども読書活動推進計画(第四次)			
						(岡山県) 倉敷市	倉敷市子ども読書活動推進計画(第四次)			
						(岡山県) 奈義町	奈義町子ども読書活動推進計画(第三次)			
						鳥取県	鳥取県子どもの読書活動推進ビジョン(第四次)			
						鳥根県	鳥根県子ども読書活動推進計画(第四次)			
						山口県	山口県子ども読書活動推進計画(第四次)	②		
						(山口県) 宇部市	宇部市子どもの読書活動推進計画(第三次)			
						愛媛県	愛媛県子ども読書活動推進計画(第四次)			
						(福岡県) 行橋市	行橋市子ども読書活動推進計画(第三次)			
						(長崎県) 壱岐市	壱岐市子ども読書活動推進計画			
						(長崎県) 時津町	時津町子ども読書活動推進計画(第三次)			
						熊本県	肥後っ子いきいき読書プラン(第四次)	②		
						(熊本県) 八代市	八代市子ども読書活動推進計画(第二次)			
						沖縄県	沖縄県子どもの読書活動推進計画(第四次)			
						(沖縄県) 宜野湾市	宜野湾市子ども読書活動推進計画(第二次)			
2019年4月		9	5	4		(北海道) 豊浦町	豊浦町子ども読書活動推進計画			
						宮城県	みやぎ子供読書活動推進計画(第四次)	②		
						(山形県) 東根市	東根市子ども読書活動推進計画(第二次)			
						(山形県) 中山町	中山町子ども読書活動推進計画(第二次)			
						(埼玉県) 毛呂山町	毛呂山町子供読書活動推進計画(第二次)			
						(東京都) 国分寺市	国分寺市子ども読書活動推進計画(第三次)			
						(東京都) 国立市	国立市子ども読書活動推進計画(第三次)			
						(長野県) 諏訪市	諏訪市子ども読書活動推進計画(第三次)			
						(岐阜県) 恵那市	恵那市子どもの読書活動推進計画(第三次)			
						(京都府) 京都市	京都市子ども読書活動推進計画(第四次)	②		
						(兵庫県) 太子町	太子町子ども読書活動推進計画			
2019年5月		2	2			(愛知県) 犬山市	犬山市子ども読書活動推進計画(第二次)			
						(滋賀県) 甲賀市	甲賀市子ども読書活動推進計画(第三次)			
2019年7月		5	5			(福島県) 本宮市	本宮市子ども読書活動推進計画(第三次)			
						(東京都) 千代田区	千代田区子ども読書活動推進計画(第三次)			
						(長崎県) 松浦市	松浦市読書活動推進計画(2019～2023年度) ★			
						(鹿児島県) 指宿市	指宿市子ども読書活動推進計画(第三次)			
						(鹿児島県) 南九州市	南九州市子ども読書活動推進計画			
2019年9月	1	2	2			(大阪府) 守口市	守口市子ども読書活動推進計画(第二次)			
						(山口県) 周南市	周南市子供読書活動推進計画(第三次)			
						佐賀県	佐賀県子ども読書活動推進計画(第二次)			
2019年11月						広島県	広島県子供の読書活動推進計画(第四次)	②		
2019年12月		1	1			(神奈川県) 横浜市	横浜市民読書活動推進計画(第二次) ★		H	
2020年2月		2	2			青森県	青森県子ども読書活動推進計画(第四次)	②		

計画の発行年月	自治体数				計画主体(国・都道府県・市区町村の名称)			ビブリオバトルに言及している子ども読書活動推進計画の名称	計画改訂状況	関連図書
	都道府県	市区町村	市区	町村	国	都道府県	市区町村			
2020年3月	5	44	37	7		福島県		福島県子ども読書活動推進計画(第四次)	②	
					(東京都)	墨田区		墨田区子ども読書活動推進計画(第四次)		
					(神奈川県)	平塚市		平塚市子ども読書活動推進計画(第四次)		
					(北海道)	深川市		深川市子どもの読書活動推進計画(第二次)		
					(北海道)	鹿部町		鹿部町子ども読書推進計画(第三次)		
					(北海道)	東神楽町		東神楽町子ども読書推進計画(第三次)	②	
					(北海道)	東川町		東川町読書活動推進計画 ★		
					(秋田県)	羽後町		羽後町子ども読書活動推進計画		
					(山形県)	鶴岡市		鶴岡市子ども読書活動推進計画(第二次)		
					(福島県)	田村市		田村市子ども読書活動推進計画(第三次)		
					(茨城県)	日立市		日立市子ども読書活動推進計画(2020~2024年)		
					(栃木県)	真岡市		真岡市子どもの読書活動推進計画(第三次)		
					(栃木県)	矢板市		矢板市子ども読書活動推進計画(第三次)		
					(栃木県)	芳賀町		芳賀町子ども読書活動推進計画(第四次)		
						群馬県		群馬県読書活動推進計画(第四次)(2020~2024年度) ★		
					(群馬県)	桐生市		桐生市子ども読書活動推進計画(第三次)		
					(埼玉県)	行田市		行田市子ども読書活動推進計画(第三次)		
					(埼玉県)	吉川市		吉川市子ども読書活動推進計画(第三次)		
					(東京都)	品川区		品川区子ども読書活動推進計画(2020~2024年度)		
					(東京都)	練馬区		練馬区子ども読書活動推進計画(第四次)		
					(東京都)	小平市		小平市子ども読書活動推進計画(第四次)		
					(東京都)	日野市		日野市子ども読書活動推進計画(第四次)		
					(東京都)	稲城市		稲城市子ども読書活動推進計画(第三次)		
					(神奈川県)	相模原市		相模原市子ども読書活動推進計画(第三次)		
					(新潟県)	新潟市		新潟市子ども読書活動推進計画(第三次)		
					(富山県)	富山市		富山市子ども読書活動推進計画(第四次)		
					(石川県)	小松市		こまつ市民読書活動推進計画2020 ★		
					(石川県)	珠洲市		珠洲市子ども読書活動推進計画(第二次)		
					(石川県)	野々市市		野々市市子ども読書活動推進計画(第三次)	②	
						福井県		福井県子どもの読書活動推進計画(第三次)		
						長野県		長野県子ども読書活動推進計画(第四次)		
						岐阜県		岐阜県子どもの読書活動推進計画(第四次)		
					(岐阜県)	可見市		可見市子どもの読書活動推進計画(第四次)		
					(岐阜県)	高山市		高山市子ども読書活動推進計画(第三次)		
						三重県		三重県子ども読書活動推進計画(第四次)	②	
					(三重県)	松阪市		松阪市子ども読書活動推進計画(第三次)		
					(滋賀県)	草津市		草津市子ども読書活動推進計画(第三次)		
					(滋賀県)	守山市		守山市子ども読書活動推進計画(第三次)		
					(滋賀県)	栗東市		栗東市子ども読書活動推進計画(第三次)		
					(大阪府)	岸和田市		岸和田市子ども読書活動推進計画(第三次)		
	京都府		京都府子どもの読書活動推進計画(第四次)	②						
	兵庫県		ひょうご子どもの読書活動推進計画(第四次)	②						
(岡山県)	総社市		総社市子ども読書活動推進計画(第四次)							
(岡山県)	鏡野町		鏡野町子ども読書活動推進計画(第一次)							
(島根県)	雲南市		雲南市子ども読書活動推進計画(第二次)							
(山口県)	防府市		防府市子ども読書活動推進計画(第三次)							
(山口県)	岩国市		岩国市子どもの読書活動推進計画(第四次)							
(香川県)	高松市		高松市子ども読書活動推進計画(第五次)							
(徳島県)	徳島市		徳島市子どもの読書活動推進計画(第二次)							
(高知県)	土佐清水市		土佐清水市子ども読書活動推進計画(第二次)							
(福岡県)	大牟田市		大牟田市子ども読書推進計画(第三次)							
(福岡県)	久留米市		久留米市子どもの読書活動推進計画(第三次)							

計画の発行年月	自治体数				計画主体(国・都道府県・市区町村の名称)			ビブリオバトルに言及している子ども読書活動推進計画の名称	計画改訂状況	関連図書
	都道府県	市区町村	市区	町村	国	都道府県	市区町村			
						(福岡県)	小郡市	小郡市子ども読書活動推進計画(第四次)		
						(福岡県)	宇美町	宇美町子ども読書活動推進計画(第三次)		
						大分県		大分県子ども読書活動推進計画(第四次)		
						(熊本県)	熊本市	熊本市子ども読書活動推進計画(第四次)	②	
						(宮崎県)	日之影町	日之影町子ども読書活動推進計画		
						(鹿児島県)	いちき串木野市	いちき串木野市子ども読書活動推進計画(第四次)		
合計	41	254	210	44						

※1：★印のついた自治体は、子どもだけでなく、大人も含めたすべての世代の読書を対象とした計画となっている。

※2：同一自治体での改訂版が出た場合、①②として区別をした。

※3：計画名の「第〇次」の数字は、冒頭に付ける場合と括弧書きで末尾に付ける場合の二通りの書式が見られたが、本研究ではすべて末尾に丸括弧の表記で統一した。

※4：「第〇次」の数字は、自治体ごとに算用数字と漢数字のいずれかの表記となっているが、本研究ではすべて漢数字に統一した。

※5：自治体によっては「第〇次」の表記ではなく、年度表記による計画名になっているため、それらについては原文のままとした。

※6：和歌山県有田川町『有田川町子ども読書活動推進計画』は、公表年の記載のみで月が不明のため、教育委員会に直接問い合わせた上で2016年4月であることを特定した。

※7：関連図書の項目の詳細については、「表3-別表」としてまとめた。

表3-2：「子ども読書活動推進計画」のなかでビブリオバトルに言及している自治体数(年月順/計画は2020年4月から12月まで+関連図書は2021年2月まで) [参考資料]

本研究では2020年3月31日(2019年度)までを調査対象としているため、以下のデータはほかの表には反映していないが、今後(2020年度以降)の調査のための参考資料として情報をまとめた。

計画の発行年月	自治体数				計画主体(国・都道府県・市区町村)			ビブリオバトルに言及している子ども読書活動推進計画の名称	計画改訂状況	関連図書
	都道府県	市区町村	市区	町村	国	都道府県	市区町村			
2020年4月		9	6	3		(茨城県)	鹿嶋市	鹿嶋市子どもの読書活動推進計画(第二次)		
						(富山県)	小矢部市	小矢部市子ども読書活動推進計画(第三次)		
						(長野県)	千曲市	千曲市子ども読書活動推進計画(第三次)		
						(長野県)	原村	原村子ども読書活動推進計画(第三次)		
						(静岡県)	御前崎市	御前崎市子ども読書活動推進計画(第二次)		
						(奈良県)	五條市	五條市子ども読書活動推進計画		
						(和歌山県)	串本町	串本町子ども読書活動推進計画(第三次)		
						(福岡県)	久山町	久山町子ども読書活動推進計画(第二次)		
						(長崎県)	佐世保市	佐世保市子ども読書プラン(第三次)		
2020年5月		1		1		(北海道)	新ひだか町	新ひだか町読書活動推進計画 ★		I
2020年8月						(長野県)	佐久市	佐久市子ども読書活動推進計画(第三次)	②	
2020年10月		1	1			(広島県)	東広島市	東広島市子どもの読書活動推進計画(第三次)		
2020年11月		1		1		(新潟県)	聖籠町	聖籠町子ども読書活動推進計画(第二次)		
2021年2月										J
合計	0	12	7	5						

表3-別表：ビブリオバトル関連図書の一覧

表3-1および表3-2に示した関連図書は、以下に示した一覧の通りである。

A) 谷口忠大著『ビブリオバトル：本を知り人を知る書評ゲーム』文藝春秋、2013年4月
B) ビブリオバトル普及委員会編『ビブリオバトル入門：本を通して人を知る・人を通して本を知る』情報科学技術協会、2013年6月
C) 粕谷亮美文、谷口忠大監修『ビブリオバトルを楽しもう：ゲームで広がる読書の輪』さ・え・ら書房、2014年3月
D) ビブリオバトル普及委員会編著『ビブリオバトルハンドブック』子どもの未来社、2015年4月
E) 谷口忠大監修『やるぜ！ビブリオバトル：コミュニケーションナビ話す・聞く①』すずき出版、2016年1月
F) 粕谷亮美文、谷口忠大監修『マンガでわかるビブリオバトルに挑戦！：学校・図書館で成功させる活用実践ガイド』さ・え・ら書房、2016年3月
G) 須藤秀紹、粕谷亮美文編『ビブリオバトル実践集：読書とコミュニケーション：小学校・中学校・高校』子どもの未来社、2016年6月
H) 谷口忠大著『賀茂川コミュニケーション塾：ビブリオバトルから人工知能まで』世界思想社、2019年12月
I) 益井博史著『ソロモン諸島でビブリオバトル』子どもの未来社、2020年5月
J) 木村修平、近藤雪絵編著『英語でビブリオバトル実践集』子どもの未来社、2021年2月

である。この表4からは、以下のことが読み取れる。

- ①国および全国の都道府県・市区町村による子ども読書活動推進計画について、ビブリオバトルに言及した計画数をまとめると、累積で100を越えたのは2017年3月の時点である。2013年5月の文部科学省「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(第三次)」から数えると、3年10か月の時間がかかっていることがわかる。
- ②同様に、ビブリオバトルに言及した計画数をまとめると、累積で200を越えたのは、2019年3月の時点である。約4年間の時間をかけて計画の累積数が100を超えてからは、さらに2年で100を増加させている。
- ③全国的な傾向として、ビブリオバトルは策定された子ども読書活動推進計画のなかで言及され

る事例が増加傾向にある。

4.5 策定自治体数の年度別進捗状況の割合

表5は、前述した表4をもとにして、策定自治体数の割合を算出したものである。この表5からは、以下のことが読み取れる。

- ①子ども読書活動推進計画のなかでビブリオバトルに言及した都道府県が全体の過半数を超えたのは、2018年度になってからである(74.5%)。
- ②調査対象となったすべての市区町村においては、2018年度以降に全体の10%を超えるようになる(10.9%)。市区のみに限れば、2017年度以降に10%を超えるようになる(13.6%)。
- ③子ども読書活動推進計画を策定済みの市区町村においては、2017年度以降に全体の10%を超え

表4：子ども読書活動推進計画の策定状況およびビブリオバトルに言及した調査対象自治体数(年度順/2019年度まで)

調査年度 (※1)	(A) 文部科学省による策定状況調査の対象となった都道府県および市区町村数(※2)				(B) 子ども読書活動推進計画を策定済みの都道府県および市区町村数(累積)(※3)				(C) 子ども読書活動推進計画のなかでビブリオバトルに言及した都道府県および市区町村数(累積)(※4)			
	都道府県	市区町村	市区	町村	都道府県	市区町村	市区	町村	都道府県	市区町村	市区	町村
2012年度	47	1,742	811	931	47	1,041	620	421	1	0	0	0
2013年度	47	1,742	812	930	47	1,119	652	467	5	3	3	0
2014年度	47	1,741	813	928	47	1,202(※5)	686	516	13	17	14	3
2015年度	47	1,741	813	928	47	1,261	711	550	16	52	42	10
2016年度	47	1,741	814	927	47	1,311	721	590	20	94	78	16
2017年度	47	1,711(※6)	801	910	47	1,316	720	596	21	131	109	22
2018年度	47	1,741	815	926	47	1,398	753	645	35	189	156	33
2019年度	47	1,741	815	926	47	1,424	761	663	41	254	210	44

※1：調査対象年月日は、いずれの年度も3月31日現在である。

※2：策定状況調査の対象となった各年度ごとの市区町村数は、文部科学省「子ども読書の情報館」(<https://www.kodomodokusyo.go.jp/>)よりデータを取得した。文部科学省による資料では明記されていなかった各年度の市区町村数は、総務省統計局「政府統計の総合窓口(e-Stat)」(<https://www.e-stat.go.jp/municipalities/number-of-municipalities>)よりデータを補った。

※3：各年度ごとの市区町村数は、文部科学省「子ども読書の情報館」(<https://www.kodomodokusyo.go.jp/>)よりデータを取得した。

※4：筆者自身による悉皆調査(表3-1・表3-2)よりデータを取得した。

※5：2014年に子ども読書活動推進計画を策定済みの自治体数は、文部科学省の公表データでは1,203(市区686・町村516)となっているが、市区町村の正確な合計数は1,202(市区686・町村516)となるため、参照した文部科学省の公表データから1,203→1,202と数値を修正した(文部科学省にも直接問い合わせ確認済み)。

※6：文部科学省による策定状況調査は、2017年度は株式会社リベルタス・コンサルティングが請け負っている。調査対象となった自治体数は、この年度のみアンケート調査未回答の自治体(30市区町村)を除いた1,711市区町村となっており、ほかの年度と数値データに若干違いが見られるため、この数値は参考データとして取り扱う。

るようになる(10.0%)。市区のみに限れば、2016年度以降に10%を超えるようになる(10.8%)。また、町村のみに限れば、2018年度以降に全体の5%を超えるようになる(5.1%)。

以上のことをまとめると、全国各地の自治体が子ども読書活動推進計画のなかでビブリオバトルに言及する割合が少しずつ高まってきた時期としては、大まかに2016年度には市区レベルで注目されるようになり、2018年度には市区町村レベルでも事例が増加していることが確認できる。

文部科学省が「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(第三次)」を公表した2013年を起点として考えてみれば、そこからおよそ3年から5年ほどの時間がかかっていることが確認できる。2018年は「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画(第四次)」が公表された時期でもあるが、国(文部科学省)の計画にビブリオバトルが継続的に取り上げられたことは、表5において2019年度の数値がさらに伸びていること理由の一つにもなったであろう。

5. 本研究の調査で明らかになったこと

本研究で示した表1から表5をもとに、ビブリオバトルと子ども読書活動推進計画との関係について、全体的な特徴についてまとめる。

一つ目は、子ども読書活動推進計画でのビブリオ

バトルへの言及は、2014年以降にその数が増加していることから、そもそも国(文部科学省)による2013年5月の「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(第三次)」の策定が強い影響力を持っていたものと推測できる。ただし、2013年3月の北海道の唯一の先行事例があるように、すべての自治体に対して直接的なきっかけとなったわけではない。この理由はおそらく、2010年からの東京都主催による大学生・大学院生を対象とした全国大会「ビブリオバトル首都決戦」が継続的に開催されていたこと、そして2012年には東京都主催で「都立高校生言葉の祭典(第2部：書評合戦の部)」が開催されたことの影響が大きいと考えられる⁴¹⁾。国(文部科学省)が子ども読書活動推進計画で取り上げるよりも先に都道府県レベルでの実際の取組みがあったわけであり、それが大きく注目されたことで、2013年の国(文部科学省)の計画のなかでのビブリオバトルへの言及につながったと見るべきだろう。

二つ目は、「はじめに」でも言及したように、中高生の全国大会も開催されるようになった影響で、都道府県や市区町村の教育委員会が主催するビブリオバトル大会の実施事例も増えたと考えられる。このような高校生や中学生のビブリオバトル大会は、都道府県や市区町村の公共図書館を会場として実施されることも多い。また、それがそのまま全国大会のための地方予選会を兼ねていることも珍しくない。

表5：子ども読書活動推進計画のなかでビブリオバトルに言及した調査対象自治体数の割合(年度順/2019年度まで)(単位：%)

調査年度	(C/A) 調査対象となったすべての都道府県および市区町村に対する割合				(C/B) 子ども読書活動推進計画を策定済みの都道府県および市区町村に対する割合			
	都道府県	市区町村	市区	町村	都道府県	市区町村	市区	町村
2012年度	2.1%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%	0.0%	0.0%	0.0%
2013年度	10.6%	0.2%	0.4%	0.0%	10.6%	0.3%	0.5%	0.0%
2014年度	27.7%	1.0%	1.7%	0.3%	27.7%	1.4%	2.0%	0.6%
2015年度	34.0%	3.0%	5.2%	1.1%	34.0%	4.1%	5.9%	1.8%
2016年度	42.6%	5.4%	9.6%	1.7%	42.6%	7.2%	10.8%	2.7%
2017年度	44.7%	7.7%(※1)	13.6%	2.4%	44.7%	10.0%	15.1%	3.7%
2018年度	74.5%	10.9%	19.1%	3.6%	74.5%	13.5%	20.7%	5.1%
2019年度	87.2%	14.6%	25.8%	4.8%	87.2%	17.8%	27.6%	6.6%

※1：表4と同じく、2017年度の調査対象となった自治体数は、例年より30少ない1,711市区町村であるため、この数値は参考データとして取り扱う。

その場合、その大会運営に関与する学校教員や図書館員などの人数も当然増えることとなる。都道府県レベルでの高校生大会の開催は、2012年10月の東京都、2013年11月の三重県と兵庫県、2014年10月の埼玉県、2015年12月の大阪府などが早い事例である。東京都の事例を除けば、ほかの道府県はいずれも国(文部科学省)が「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(第三次)」を公開して以降に実施している。たとえば三重県では、国(文部科学省)による子ども読書活動推進計画の策定を受けて、三重県教育委員会が即座に地元の皇學館大学に連携協力を仰ぎながら、高校生を対象とした三重県大会の実施計画を進めている^{42), 43), 44)}。こうした行政主導の取組みは、ほかの自治体の事例や動向を参照することも多いため、早い段階で都道府県レベルの高校生大会が具体的な形で実現していたことは、ビブリオバトルの普及活動という点だけではなく、子ども読書活動推進計画の策定にとっても大きな影響力を持っていただろう。

三つ目は、子ども読書活動推進計画のなかでビブリオバトルに言及する事例は、年を追うごとに全国的な増加傾向にあり、普及活動へと着実につながっていると考えられる。ただし、各自治体の子ども読書活動推進計画は、それを新規策定する場合を別として、一般的におよそ5年前後の周期で改訂作業が行われるものである。そのため、ビブリオバトルを計画のなかに盛り込んでいく作業は、次の改訂の機会を待たなければならない。もし改訂のタイミングでビブリオバトルに言及しそびれてしまった場合、子ども読書活動推進計画のなかで言及するまでには、さらに5年ほどの時間を必要とするケース(ビブリオバトルに注目しながらも計画への即座の反映が難しい自治体)が出てきてしまうことも想定される。

以上の通り、ビブリオバトルが子ども読書活動推進計画に盛り込まれていくプロセスを数値データとしてまとめることができたが、実際に各自治体でどのような理由や経緯のもとに策定が進んでいったのかについては、さらに個別の調査や検討が必要になるだろう。

たとえば、子ども読書活動推進計画のなかでビブリオバトルに言及した時期を都道府県ごとに比較してみると、表6に示すように、市区町村が先行するものと都道府県が先行するものの両方が見られることである。都道府県の計画よりも市区町村の計画が

先行して策定した事例が27都府県、市区町村の計画よりも都道府県の計画が先行して策定した事例が17道県、市区町村と都道府県の計画が同じ年月に策定した事例が3県あることが確認できる。それぞれの都道府県の計画にビブリオバトルという文言が登場するよりも、市区町村の計画のほうが先に反応しているケースのほうが多く見られることから、子ども読書活動推進計画におけるビブリオバトルへの言及は、必ずしも国→都道府県→市区町村といった上意下達の流れに沿ったものばかりではないことも見えてくる。こういった動きは、同一の都道府県内での情報伝達だけでなく、ほかの都道府県・市区町村の計画の事例が随時参照されることにも留意が必要だろうし、表3-1・表3-2・表3-別表で示したように、ビブリオバトルについての関連図書を参考としたところからの影響もあったはずである。これらビブリオバトルの導入事例がどのように波及してきたのかという点については、さらなる実態調査が必要となるだろう。

そのほか、たとえば学校教育における普及においては、発表時間を3分/質疑応答時間を2分に縮めたミニ・ビブリオバトルが登場したことの影響もあったはずである。このことは、特に小学校における導入に対して大きな推進力になっただろう⁴⁵⁾。あるいはまた、公共図書館を中心としたビブリオバトルの市民大会の実施など、市民レベルでの取組みが進んでいる自治体では、子ども読書活動推進計画にビブリオバトルを反映させる動きを、実際の導入事例の積み重ねによる実績が後押ししていたはずだろう⁴⁶⁾。本研究の調査結果をもとにしたより詳細な分析と検討については、稿を改めて検討してみたい。

6. おわりに

表4と表5で確認できるように、子ども読書活動推進計画のなかでビブリオバトルに言及する事例が増加してはいるが、その割合は現時点でも全国1,741市区町村のうちの14.6%($\equiv 254/1,741 \times 100$)に留まっている。2020年3月31日現在で1,424の市区町村が策定しているという条件に絞り込んで考えると、17.8%($\equiv 254/1,424 \times 100$)という割合になっている。その数値は年々増加しているとはいいながらも、現時点ではまだ一部の自治体に見られる動向であり、特に市区町村レベルで見れば、今後ますますの拡充の余地が残されていると言える。子ども読書活

表6：子ども読書活動推進計画におけるビブリオバトルへの言及状況(都道府県ごとの市区町村との策定期の比較)

各都道府県において、子ども読書活動推進計画のなかでビブリオバトルに言及した市区町村のうち、もっとも早い時期のものを取り上げ、それぞれの都道府県の計画策定期と比較できるようにした。

市区町村の計画が都道府県よりも先行(27都道府県)

	都道府県		市区町村	
1	岩手県	2019年3月	花巻市	2017年4月
2	栃木県	2019年3月	日光市	2016年3月
3	群馬県	2020年3月	高崎市	2014年3月
4	埼玉県	2019年3月	三郷市	2015年11月
5	東京都	2015年2月	北区	2014年12月
6	神奈川県	2019年3月	小田原市	2017年3月
7	新潟県	-	五泉市	2018年3月
8	石川県	2019年3月	野々市市	2015年3月
9	福井県	2020年3月	越前市	2019年3月
10	山梨県	2017年3月	山梨市	2016年3月
11	長野県	2020年3月	佐久市	2015年8月
12	岐阜県	2020年3月	富加町	2016年4月
13	静岡県	2018年3月	藤枝市	2016年3月
14	愛知県	2019年2月	津島市	2016年8月
15	京都府	2015年1月	京都市	2014年3月
16	大阪府	2016年3月	交野市	2015年2月
17	奈良県	-	大和高田市	2016年11月
18	和歌山県	2019年3月	橋本市	2015年3月
19	島根県	2019年3月	浜田市	2016年10月
20	徳島県	-	鳴門市 神山町 那賀町	2016年3月
21	香川県	-	観音寺市	2018年3月
22	愛媛県	2019年3月	松山市	2016年3月
23	福岡県	2016年8月	小郡市	2015年3月
24	長崎県	-	西海市	2018年2月
25	大分県	2020年3月	臼杵市	2016年3月
26	宮崎県	-	門川町	2017年3月
27	鹿児島県	2018年12月	鹿児島市	2016年3月

※新潟県・奈良県・徳島県・香川県・長崎県・宮崎県の6県は、市町村のみがビブリオバトルに言及している。

都道府県の計画が市区町村の計画よりも先行(17道県)

	都道府県		市区町村	
1	北海道	2013年3月	紋別市	2014年5月
2	青森県	2015年3月	十和田市	2016年3月
3	宮城県	2014年3月	塩竈市	2016年4月
4	山形県	2017年3月	東根市 中山町	2019年4月
5	福島県	2015年2月	福島市	2016年6月
6	茨城県	2015年3月	取手市	2017年3月
7	千葉県	2015年3月	柏市	2017年3月
8	富山県	2019年3月	富山市	2020年3月
9	三重県	2015年4月	桑名市	2017年3月
10	滋賀県	2014年12月	甲賀市	2019年5月
11	兵庫県	2015年3月	高砂市	2016年2月
12	鳥取県	2019年3月	-	-
13	広島県	2014年2月	廿日市市	2016年3月
14	山口県	2014年3月	光市	2017年3月
15	高知県	2017年2月	土佐清水市	2020年3月
16	佐賀県	2019年9月	-	-
17	熊本県	2014年2月	熊本市	2015年4月

※鳥取県・佐賀県の2県は、県のみがビブリオバトルに言及している。

市区町村と都道府県の計画が同じ年月に策定(3県)

	都道府県		市区町村	
1	秋田県	2016年3月	鹿角市 湯沢市	2016年3月
2	岡山県	2019年3月	倉敷市 奈義町	2019年3月
3	沖縄県	2019年3月	宜野湾市	2019年3月

動推進計画のなかでビブリオバトルがどのように言及されてきたのかについては、毎年定期的な報告がなされている国(文部科学省)の子ども読書活動推進計画の策定状況調査と同じように、今後も継続的な策定状況の確認が求められるだろう。

注

- 1) 日本図書館情報学会用語辞典編集委員会「ビブリオバトル」『図書館情報学用語辞典第5版』丸善出版, 2020, p. 208.
- 2) ビブリオバトル普及委員会「ビブリオバトルを歩んで【ビブ人名鑑#8:中津壮人さん】」2020-08-27. <https://note.com/com_bibliobattle/n/n80ef66a31d1a>. [引用日: 2021-12-04]
- 3) ビブリオバトル普及委員会「いつでも戻ってこれる場所を作る【ビブ人名鑑#10:吉野英知さん】」2020-09-03. <https://note.com/com_bibliobattle/n/n13319c9a9345>. [引用日: 2021-12-04]
- 4) ビブリオバトル普及委員会「多様な価値観に触れて問題意識を育てる場【ビブ人名鑑#11:飯島玲生さん】」2020-09-16. <https://note.com/com_bibliobattle/n/n8e1aaab10145>. [引用日: 2021-12-04]
- 5) ビブリオバトル普及委員会「入会申し込み」『知的書評合戦ビブリオバトル公式サイト』<<https://www.bibliobattle.jp/aboutus/admission>>. [引用日: 2021-12-04]
- 6) 2010年に東京都主催で「ビブリオバトル首都決戦2010」が実施され、毎年恒例の継続的なイベントとなった。2014年以降は主催者が活字文化推進会議に変更となっている。
- 7) 谷口忠大著『ビブリオバトル:本を知り人を知る書評ゲーム』(文藝春秋, 2013年)を皮切りとして、ビブリオバトルに関連する本が毎年のように出版されている。関連図書の一覧は、ビブリオバトル普及委員会が詳しくまとめている。ビブリオバトル普及委員会「関連書籍」『ビブリオバトル普及委員会公式ウェブサイト』。<<https://www.bibliobattle.jp/books>>. [引用日: 2021-12-04]
- 8) ビブリオバトル普及委員会の主催事業の一つ。2014年に「ビブリオバトル・シンポジウム2014」が初めて開催され、これ以降も毎年継続的に実施されている。ビブリオバトル普及委員会「ビブリオバトル・シンポジウム2014」2014. <<http://sympo14.bibliobattle.jp/>>. [引用日: 2021-12-04]
- 9) ビブリオバトル普及委員会「Bibliobattle of the Year」『ビブリオバトル普及委員会公式ウェブサイト』。<<http://www.bibliobattle.jp/bibliobattle-of-the-year>>. [引用日: 2021-12-04]
- 10) ビブリオバトル普及委員会では、出版社からの問い合わせに応じて、文言の確認や収録内容のアドバイスを随時行っている。
- 11) 活字文化推進会議によって「全国高等学校ビブリオバトル2014」が開始される。読売新聞社「高校ビブリオ:本の甲子園」『活字の学び』。<<https://katsuji.yomiuri.co.jp/archives/category/high-school>>. [引用日: 2021-12-04]
- 12) 高校生を対象とした全国大会が開始されたのは2014年度からだが、それに先行して、2012年度のうちに都内の高校性を対象とした「都立高校生言葉の祭典(第2部:書評合戦の部)」(2012年10月21日)と、首都圏の高校生を対象とした「第1回書評合戦ビブリオバトル首都圏高校生大会」(2013年2月23日)が実施されている。読売新聞社「第1回書評合戦ビブリオバトル首都圏高校生大会」『活字の学び』2012-11-26. <<https://katsuji.yomiuri.co.jp/archives/274>>. [引用日: 2021-12-04]
- 13) 読売新聞社「中学ビブリオ:中学校生活の記念に」『活字の学び』。<<https://katsuji.yomiuri.co.jp/archives/category/juniorhighschool>>. [引用日: 2021-12-04]
- 14) 木村修平, 近藤雪絵編著『英語でビブリオバトル実践集』子どもの未来社, 2020.
- 15) 前掲1).
- 16) 知的資源イニシアティブ(IRI)「Library of the Year 2012」2012. <<https://www.iri-net.org/loy/loy2012/>>. [引用日: 2021-12-04]
- 17) 文部科学省「『第三次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画』について」2013-05. <https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/05/1335078.htm>. [引用日: 2021-12-04]
- 18) 本来の表記は「第三次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」だが、「第〇次」の表記に関しては、本研究では括弧書きで計画名の後ろに付ける方針で統一した。
- 19) 高橋松之助記念顕彰財団「第10回高橋松之助記念「朝の読書大賞」「文字・活字文化推進大賞」受賞者決定のお知らせ」2016-09-29. <<http://www.takahashi-award.jp/award/10/jyusyo.html>>. [引用日: 2021-12-04]
- 20) 文部科学省「関連データ・資料等」『子ども読書の情報館』。<<https://www.kodomodokusyo.go.jp/happyou/datas.html>>. [引用日: 2021-12-04]
- 21) 岡野裕行, 河野亜美「三重県における高校生ビブリオバトルの参加側と普及側の立場から見てきたこと」『図書館界』vol. 72, no. 3, 2020, p. 125-133.
- 22) 文部科学省「子どもの読書活動の推進に関する法律」2001. <https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/dokusho/link/080617/003.pdf>. [引用日: 2021-12-04]
- 23) 文部科学省「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」2002-08. <https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/dokusyo/hourei/cont_001/003.pdf>. [引用日: 2021-12-04]
- 24) 文部科学省「関係法令等」『子ども読書の情報館』。<<https://www.kodomodokusyo.go.jp/happyou/hourei.html>>. [引用日: 2021-12-04]
- 25) 前掲20).

- 26) 前掲22).
- 27) 文部科学省「都道府県及び市町村における子供読書活動推進計画の策定状況について」2020-06-02. <https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/31/05/1417045_00001.htm>. [引用日：2021-12-04]
- なお、文部科学省の調査では「市(特別区含む)町村」というように、「市」と「特別区」を合わせたデータ集計となっているが、本研究では「市」と「特別区」を区別してデータ集計する方針としたため、それに合わせて表記を「市町村」から「市区町村」に修正して示している。
- 28) 日置将之「本を読む子どもは増えたのか? : 「子どもの読書活動の推進に関する法律」制定から14年(座標)」『図書館界』vol. 67, no. 4, 2015, p. 209.
- 29) 各都道府県レベルの大会は、そのまま全国大会である「全国高等学校ビブリオバトル」への出場者を決定するための大会としても位置づけられていることが多い。
- 30) 狛江市教育委員会「第三次狛江市子ども読書活動推進計画」2017-05. <<https://www.komae.ed.jp/index.cfm/1,2623,c.html/2623/20170502-092418.pdf>>. [引用日：2021-12-04]
- 31) 本研究では、ビブリオバトルの実施方法や意義などを解説するような普及目的の図書のみを取り上げている。このほかにもビブリオバトルを題材としたフィクションや、ビブリオバトルの実施報告書などを見ることができると、それらについては除外した。
- 32) 前掲27).
- 33) たとえば八王子市「読書のまち八王子」の場合は、“本市においても、平成15年3月に「子ども読書活動推進計画」を、平成16年3月には「生涯読書活動推進計画」を策定いたしました。平成22年3月には、これらの計画を「第2次読書のまち八王子推進計画」として統合し、図書館機能の強化とともに、学校図書館との連携・支援等に取り組むことで大きな成果をあげております。”と記されている。八王子市図書館「読書のまち八王子推進計画」。<<https://www.library.city.hachioji.tokyo.jp/reading-town/page01.html>>. [引用日：2021-12-04]
- 34) 子ども読書活動推進計画のなかでビブリオバトルに言及している村は、長野県の1村(南箕輪村)のみである。
- 35) 特に栃木県では、県内の86%にあたる自治体がビブリオバトルに言及しているなど、他の都道府県と比べても、その数値が抜きん出ていることがわかる。
- 36) たとえば長崎県は、県レベルでは計画のなかで取り上げていないが、市町での計画の割合は全体からすると高いほうに位置している。都道府県の計画にはなくとも、市区町村での、取り上げが進んでいる事例もある。
- 37) ただし、表3-2は本研究の調査対象期間を外れるため、今後の追調査のための参考資料として作成したものである。
- 38) なぜ国の計画よりも先行してビブリオバトルに言及することができたのかについて、北海道教育委員会にその経緯について問い合わせたが、人事異動が繰り返されたことで、
- 8年前の計画策定に関わった担当者がわからなくなっており、その理由については不明という回答を得た。
- 39) 表3-2の参考資料によれば、村の子ども読書活動推進計画のなかでビブリオバトルに言及している事例としては、2020年4月の原村(長野県)が南箕輪村に続く二番目の自治体となっていることが確認できる。
- 40) 表3-2の参考資料を確認すると、2020年8月には佐久市(長野県)が改訂版でもビブリオバトルに言及していることが確認できる。
- 41) 2012年10月21日に開催された都立高校生によるビブリオバトル「都立高校生言葉の祭典(第2部：書評合戦の部)」でチャンプ本を獲得した高校生は、同年11月24日に開催された「ビブリオバトル首都決戦2012」に唯一の高校生として特別出場しており、東京都が大学生・大学院生の大会から高校生大会へとつなげていった過程が見て取れる。
- 42) 前掲21).
- 43) 三重県の高校生ビブリオバトル大会は、三重県教育委員会の担当者と皇學館大学との間で、2013年7月に初回の打ち合わせを行い、その後数回の会議を経て、2013年11月に「高校生ビブリオバトル倉田山決戦2013」として本番の日を迎えている。三重県教育委員会の担当者は、筆者との打ち合わせの席に、2013年4月の谷口忠大著『ビブリオバトル：本を知り人を知る書評ゲーム』と、2013年5月の文部科学省「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(第三次)」を資料として持参しており、読書推進活動においてビブリオバトルを活用することを強く意識していた。その背景として、三重県教育委員会では、“学校・家庭・地域が一体となって子どもたちの希望と未来を支える学力を育んでいく取組”を目指して、2012年から「みえの学力向上県民運動」を教育計画に盛り込んでおり、三重県の高校生ビブリオバトル大会もこの計画の一つに位置づけられたものである。三重県教育委員会「みえの学力向上県民運動」。<<http://www.mie-c.ed.jp/kenminundou/>>. [引用日：2021-12-04]
- 44) 三重県の高校生ビブリオバトル大会の計画・実施の流れとは別に、2013年1月中旬には三重県教育委員会主催「三重県司書・司書教諭研修」(2013年8月に研修会実施)のテーマとして、ビブリオバトルを取り上げることが決定しており、筆者に対して講演会の講師依頼の打診がなされている。つまり三重県教育委員会は、国(文部科学省)の示した「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(第三次)」よりも約半年前の2013年1月の時点で、既にビブリオバトルに注目していたわけである。2013年8月の研修会テーマにビブリオバトルが選ばれた経緯は、研修会の共同企画者となっている三重県内の図書館関係者からの企画リクエストによるものである。年末年始を挟んだ2013年1月中旬に講師依頼が行われたというタイミングを考えると、2012年12月のうちには、ある程度は研修会の内容を検討し、部局内での調整を済ませていたはずである。このタイミング

から考えると、2012年11月に確定した「Library of the Year 2012」でビプリオバトルが大賞を受賞したという知らせに三重県内の図書館関係者が反応し、三重県教育委員会に研修会の企画をすみやかにリクエストしたものと推測される。

45) たとえば立命館小学校の大橋輝子は、学校教育にビプリオバトルを導入するにあたり、“小学生の能力を勘案してミニ・ビプリオバトルを採用”と述べている。

大橋輝子「開催例：小学校(立命館小学校)」『ビプリオバトルハンドブック』子どもの未来社、2015年、p. 54-55.

46) 佐世保市立図書館の受賞理由に“佐世保市立図書館は2016年からビプリオバトルを開催し、近年では商業施設での出張開催や市内中学・高校・大学や民間団体、社会福祉団体等と連携した佐世保市大会の開催など、回を重ねるごとに本を通じて多くの方々と出会い、交流を重ねてまいりました。”とあるように、公共図書館を中心に市内さまざまな場所へとアウトリーチ活動を行っていることが見て取れる。

◆図書館を学ぶ相互講座◆

～2021年度ご案内～

会場：大阪府立中之島図書館 別館 2階
大阪市北区中之島1-2-10

なお、大阪府に緊急事態宣言が発出された場合は開催方法の変更もあります。

連絡先：図書館を学ぶ相互講座実行委員会
tsuchan2@nifty.com

090-3055-3668(志保田 務)

2021年度〈第10回〉

日時：1月22日(土) 10:00～12:00

テーマ：「障害者差別解消法改正と図書館」

発表者：原田 安啓氏(姫路大学)

(日本図書館研究会図書館サービス研究グループ2022年1月研究例会と共催)

2021年度〈第11回〉

日時：2月26日(土) 10:00～12:00

テーマ：「アプリを使った図書館連携 千葉市での実践」

発表者：大平 陸美氏(京都産業大学)

(日本図書館研究会図書館サービス研究グループ2022年2月研究例会と共催)

2021年度〈第12回〉

日時：3月26日(土) 10:00～12:00

テーマ：「図書館学資料としての公共図書館地域資料—堺市立図書館所蔵資料を中心に—」

発表者：竹田 芳則氏(奈良大学)

(日本図書館研究会図書館学資料保存研究グループ2022年3月研究例会との共催)